

小児慢性肝疾患の実態に関する全国調査 (分担研究：小児の肝疾患に関する研究)

衛藤 隆¹、白木和夫²

要約：小児慢性肝疾患の実態を明らかにするため、全国の小児科を開設する病院より無作為に抽出した523病院を対象に郵送法による調査を実施した。有効回収率25.4%（133施設）。慢性肝疾患は合計798例で、1施設当り年間6例であった。1年間に全国で15,000名の慢性肝疾患児が診療を受けていると推定された。B型慢性肝炎、原因不明の肝機能障害、脂肪肝等が比較的多く経験された疾患であった。概して大規模病院に集まる傾向がみられたが、胆道閉鎖症・拡張症、脂肪肝ではやや異なる集積傾向を示した。

見出し語：小児慢性肝疾患、アンケート調査、全国調査、実態調査

【目的】

わが国における小児の主要な慢性肝疾患の患者数、受療状況等についての実態の概要を明らかにする。

【対象と方法】

病院要覧1989年版¹⁾を用い、全国の「一般病院」のうち、診療科目「小児科」を開設する病院を100床毎の一般病床規模別に分類し、各都道府県毎に無作為に切上げ1/10抽出を行った523病院を調査対象とした。調査対象期間は平成2年1月1日から同12月31日の1年間とした。調査項目は病院病床数、小児科病床数、年間小児科入院患者数、年間小児科

外来患者数、小児科死亡数、肝疾患による小児科死亡数および表に示した慢性肝疾患の経験症例数、入院患者数、6ヵ月以上入院例数、死亡数とした。調査票は郵送し、平成3年10月31日までに回収した。

【結果および考察】

調査票回収数は162（回収率31.0%）で、うち有効調査票数は133（回収された調査票の82.1%、調査対象数の25.4%）であった。

133施設の病院病床数は平均322床（最大1,303、最小30）〔丸括弧内以下同様〕で、小児科病床数は平均20床（260、0）であった。年間小児科入院患者数は平均980名（17,06

1 国立公衆衛生院母子保健学部、2 鳥取大学医学部小児科学教室

Department of Maternal and Child Health, The Institute of Public Health

7、0)、年間小児科外来患者数は平均16,453名(151,475、0)であった。年間小児科死亡数は平均2名(17、0)で、うち肝疾患によるものは全施設合わせて9名、平均0.07(2、0)であった。

有効回答のあった133施設から集計された小児慢性肝疾患は合計798例となり、平均すると1施設当たり年間6例の症例経験があったことになる。病床規模別の分布は表2に示す通りである。病床規模ごとに有効回答が回収された割合が異なることを考慮して全国で1年間に診療する小児慢性肝疾患(新規および継続の合計)を推定するとおよそ15,000名/年と算出される。

調査対象となった各慢性肝疾患について、1病院当たり年間に経験する症例数は表3に示すごとくで、B型慢性肝炎、原因不明の肝

機能障害(乳児期、幼児・学童期)、脂肪肝等が比較的多いことが判明した。概して病床規模の大きな病院により多く慢性肝疾患児は受診する傾向が認められるが、胆道閉鎖症、先天性胆道拡張症等は100床未満の病院にて比較的多く経験されており、乳児期の健診等にて発見される機会がありうることが想像される。脂肪肝は200床以上程度の病院でしばしば診療されている傾向がうかがえた。

【結語】

全国の小児科を開設する病院を対象に郵送法による小児慢性肝疾患実態調査を実施し、1年間に全国で約15,000名の患者が診療を受けていることが推定された。

【文献】

1) 厚生省健康政策局総務課編：病院要覧 1989年版，医学書院，1989。

表1 小児慢性肝疾患実態調査の対象疾患

1) ウイルス肝炎	5) 肝腫瘍
(1) B型慢性肝炎	(1) 肝芽腫
(2) C型慢性肝炎	(2) 肝細胞癌
(3) 非A非B型慢性肝炎	(3) その他の肝腫瘍
(4) EBVによる慢性肝炎	6) 肝膿瘍
(5) CMVによる慢性肝炎	7) 原因不明の肝機能障害
(6) その他のウイルス性慢性肝炎	・乳児
2) 肝硬変	・幼児および学童
3) 胆汁うっ滞	8) 自己免疫性肝炎
(1) 胆道閉鎖症	9) 原発性硬化性胆管炎
(2) 先天性胆道拡張症	10) 肝以外の悪性新生物に伴う肝機能障害
(3) 新生児肝炎症候群	(白血病も含む)
(4) 肝内胆管減少症(Alagille症候群)	・輸血後
(5) 進行性肝内胆汁うっ滞症(Byler病)	・薬剤性
(6) その他の特発性慢性肝内胆汁うっ滞症	11) その他
4) ビルビン代謝異常症	(1) 脂肪肝
(1) Criglar-Najjar症候群	(2) ウィルソン病
(2) Gilbert病	(3) 糖原病
(3) Lucey-Driscoll症候群	(4) 薬剤性
(4) Dubin-Johnson症候群	(5) その他
(5) Rotor病	

表2 病床規模別小児慢性肝疾患症例数（有効回答病院の合計および平均）

病床規模	0-99床	100-199床	200-299床	300-399床	400-499床	500床-	合計
小児慢性肝疾患症例数合計	55	49	81	209	110	294	798
平均	2.6	1.9	3.9	9.5	7.3	10.5	6.0
有効回答病院数 N ₁	21	26	21	22	15	28	133
全国病院数* N ₂	1437	993	552	349	173	272	3776
N ₁ /N ₂ (%)	1.5	2.6	3.8	6.3	8.7	10.3	3.5

* 小児科を開設している一般病院数（文献1）による

表3 病床規模別疾患別1病院当たり年間小児慢性肝疾患症例数（主要14疾患、降順）

病床規模	0-99床	100-199床	200-299床	300-399床	400-499床	500床-	合計
B型慢性肝炎	0.29	0.38	0.86	2.77	1.40	1.32	1.15
原因不明の肝機能障害（乳児）	0.19	0.00	0.48	1.82	0.47	1.00	0.67
原因不明の肝機能障害（幼学）	0.29	0.15	0.48	1.91	0.60	0.57	0.65
脂肪肝	0.10	0.19	0.76	0.55	0.73	1.18	0.59
C型慢性肝炎	0.10	0.23	0.24	0.45	0.60	0.68	0.38
悪性新生物に伴う肝機能障害（薬剤）	0.05	0.38	0.00	0.05	0.33	1.50	0.38
胆道閉鎖症	0.52	0.08	0.19	0.05	0.67	0.25	0.26
非A非B型慢性肝炎	0.00	0.12	0.10	0.23	0.67	0.50	0.26
薬剤性肝障害	0.19	0.04	0.10	0.27	0.13	0.61	0.24
EBV慢性肝炎	0.05	0.08	0.14	0.09	0.47	0.32	0.18
先天性胆道拡張症	0.52	0.04	0.05	0.05	0.13	0.21	0.17
新生児肝炎症候群	0.00	0.00	0.10	0.59	0.13	0.18	0.17
悪性新生物に伴う肝機能障害（輸血）	0.00	0.35	0.00	0.00	0.00	0.46	0.17
CMV慢性肝炎	0.05	0.00	0.00	0.05	0.33	0.25	0.11



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:小児慢性肝疾患の実態を明らかにするため、全国の小児科を開設する病院より無作為に抽出した 523 病院を対象に郵送法による調査を実施した。有効回収率 25.4%(133 施設)。慢性肝疾患は合計 798 例で、1 施設当り年間 6 例であった。1 年間に全国で 15,000 名の慢性肝疾患児が診療を受けていると推定された。B 型慢性肝炎、原因不明の肝機能障害、脂肪肝等が比較的多く経験された疾患であった。概して大規模病院に集まる傾向がみられたが、胆道閉鎖症・拡張症、脂肪肝ではやや異なる集積傾向を示した。